

## 第20回佐賀市子ども・子育て会議 意見等のまとめ

### 議題(1) 令和3年度 結果報告(教育・保育施設の状況等)

#### 資料2 令和3年度 結果報告(教育・保育施設の状況等)

事務局	<p>佐賀市の令和3年度における教育・保育施設の状況等について、資料2を用いて説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1号認定の入所児童数は減少しており、コロナの影響もあるものの3号全体では増加傾向にある。</li> <li>・2号認定3号認定者全体としては依然として入所児童数は増加傾向にある。</li> <li>・保育ニーズは依然として増加傾向にあり、特に低年齢化が進んでいる状況。</li> <li>・現状では、0歳児から2歳児までは園指定の待機児童がまだまだ発生しており、定員不足を解消する必要がある。</li> </ul>
委員	<p>児童の状況における、3歳児、4歳児、5歳児の自宅にいる場合の実態はどうか。</p> <p>(事務局)ご自宅にいる場合と、認可外保育施設の利用者というのが、その部分もこちらに含まれるということになります。</p> <p>※後ほど、委員から「児童発達支援事業、療育支援センター等の利用者もいる」との、ご意見いただく。</p>

### 議題(2) 令和3年度 結果報告(地域子ども・子育て支援事業)

#### 資料3 令和3年度 結果報告(地域子ども・子育て支援事業)

事務局	<p>第2期佐賀市子ども・子育て支援事業計画において実施している、地域子ども・子育て支援事業の令和3年度の実施状況について資料3を用いて説明。</p>
委員	<p>子育てサークル、各校区にある公民館などで活動している親子サークルなどは、身近に一緒に遊べる仲間がいないなどの不安をお持ちの方や相談する場所の少ない保護者に参加して欲しいが、利用者数は減少しており、継続的なスタッフの確保が難しい部分もあるが、とても大切な事業だと感じている。</p> <p>⑪番の放課後児童健全育成事業について、ある地区では今年度は公民館を開放していただき、自由にフリースペースで過ごしていいという取組みを8時半ぐらいから行っている。そういうのも、児童クラブではないけれども、地域の活動や公民館の活動として入ってくると、家庭としては安心かなと思う。</p> <p>(事務局)引き続き、市も十分バックアップしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>⑪番の放課後児童健全育成事業について小学校3年生までというのは何か選定理由があるのか。この年齢を上げることは今後、可能なのか。</p> <p>(事務局)令和2年度までは佐賀市全体で、3年生までの待機児童が200名を超える状況だった。まずは一番ニーズの高い、3年生までの待機児童解消を目指すということでやってきた。今後はできる校区から少しずつ、6年生までの待機児童を目指して、場所の確保と、指導員の確保をやっていきたいと考えている。</p>
委員	<p>④番の乳幼児家庭全戸訪問事業について、コロナになって、お家の中に入って、赤ちゃんの様子をみたりとか、そういうことが実際出来ているのかとか、訪問のやり方とかが変わっているのかを知りたい。</p> <p>(事務局)実際、お母さんたちと話をしてみると、コロナの中で、人とのつながりが物凄く減少している状況だからこそ、ぜひ、来てほしいという意見が多い。特にやり方を変えたわけではないが、なるべく接触する時間を簡潔にして早めに切り上げるなど、感染予防、対策を講じながら引き続き取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>⑤の養育支援訪問事業について、「支援員が家庭訪問し」とあるが、どんな方で、訪問する方は市内に何名ぐらいいるのか。</p> <p>(事務局)一つは、「子ども家庭支援員」で、外部委託をしており、希望される家庭に週に1回とか、ワンクール三カ月などで定期的に訪問を行っている。昨年度の実績でいうと、家庭数が3家庭で29回ほど、NPOの職員に支援員として行っていただいている。人数はだいたい3名ほど。</p> <p>あともう一つは、「子ども家庭支援専門員」で、子ども家庭課の職員。専門職な職員で、保健師、社会福祉士、心理士などによる訪問で、昨年度の実績としては、内数にはなるが、実家庭数としては39家庭に370回、訪問し、職員数は6名ほどになる。</p>

### 議題(3) 利用定員の設定について

資料4 利用定員の設定(藤影幼稚園ふじかけこども園、宝正こども園、西九州大学附属三光保育園 分園(仮称))

事務局	利用定員の設定について、資料4を用いて説明。
委員	<p>分園の場所について、近くに既存の保育園があり、その周りの園も定員にも余裕があられるのかなというところもある。「0、1、2歳で入れないお子さんがいる」と最初に説明があったが、それもエリアによるところもあるのかなと感じており、場所的にいかなものかというの少し感じるどころ。</p> <p>佐賀市として、今後の、保育の意義などをふまえて、こういう運営であったり、保育施設等を増やしていったり、定員を増やすということについてどう考えているのか伺いたい。</p> <p>(事務局) 場所的な問題については、保育園(本園)の近隣、大体直線距離で約1キロメートルの距離にある。園指定待機もあり、常に定員超過の状況が続いている。</p> <p>子どもたちの数が年々減少しており、この傾向は、今後も続くものと考えられる。これに伴い、今後、保育需要も減少していくものと想定されるが、現状においては、特に0、1、2歳児の待機児童が多く存在している。コロナウイルスの影響などによって、出生率が減少したり、あるいは預け控えといった状況がある中においても、園指定待機児童が多くいるというような状況であり、ゆるやかにではあるが、保育需要は今後も引き続き伸びていくものと認識しているところ。</p>
結論	会議は、「藤影幼稚園ふじかけこども園」「宝正こども園」「西九州大学附属三光保育園 分園(仮称)」の利用定員について、原案どおりで承認する。

### その他

委員	今困っている園がある、だからそこを増やしていくことは、利用者にとってもありがたいことだと思うが、今後の児童数の推移や児童が減っていく中で、定員を増やして、空きが出てくる状況を、もう既に定員割れしてるところが沢山ある中で、今後定員についてどういうふうを考えていくのかというところは、今後の課題としてお示しいただきたい。
委員	ほぼ10年ぐらい、児童数が過去12、3年で1,000人ぐらい、各学年500人ずつ減っていて、どんどん人口が減っていている。これがどうなっていくのか、非常に心配している。医療の面からすると、コロナで、お母さんたちが、園に預けたりが心配とか、いろいろと心配事もあったと思うが、今後の少子化について、どうかなと思って心配している。
委員	<p>今回の乳幼児の全戸訪問事業があるが、虐待を一番、見つけやすいのは、こういう方たちや、幼稚園・保育園の先生方だと思う。民生委員はそこまでの小さいお子さんへの訪問が難しい。出来れば、佐賀市は100%、皆さんとこに行き、見ていただければありがたいと思っている。</p> <p>もう一つ児童クラブの件について、地域をまわると3年生、4年生、5年生、6年生も見て欲しいという声は、結構いる。ただ、現在の児童の学校としての定員がいっぱいになって、今回、地元の認定こども園が引受けてくれた事例もある。同じように余力があれば、4年生5年生6年生も受入れていけるようにして欲しい。公民館や小学校のホームページを見て引っ越してこられる方もおり、子どもをちゃんと見るような体制が整ってれば、子どもさんたちが増えてくる。そういうところで、佐賀市ももうちょっと一生懸命になってくれればいいかなと思う。佐賀市が子どもたち中心で、安全で住みやすい、地域であって欲しいなと思う。</p>
委員	私の子どもは0歳から3歳までは、小規模保育園にいた。今は4歳になったので、別のところにいるが、同じく思うことが、先生と保護者のコミュニケーションが出来てない。私もママ友が欲しいが、作れないというのが現状で、孤独感をすごく味わっている。もう少しそこに孤独感がないような感じで保護者と保護者を結びつけていただけたらと思う。
委員	一般の認定こども園等で障がいのあるお子さんとか医療的ケア児のお子さんの受入れがどうなってるのかなというのを知りたいなと思ったので、また、次の機会にでも説明をお願いしたい。

委員	認可外保育施設として、今課題だなど思うところは、企業主導型が増えて、所属をされないところが多い。声をかけてアクションがある所はいいが、ない所は、把握が出来ないで心配になるところがある。そして行政が入ってこないというところで、保育の質についても心配な点がある。それをおっしゃってくださる企業主導型もおられるが、所属されない所は、こちらも把握が出来ないので難しい。要保護児童、要支援児童になるお子さんが増えてきている。一番大きな問題点が認可外とか企業主導型の中では最近出てきたかなという印象を受けている。今後の課題として欲しい。
委員	乳幼児家庭全戸訪問事業で四カ月までのお子さんの訪問をされているが、できれば六カ月でもしていただければと思う。0歳児から保育所等にお預けいただけるお子さんはどうにかなるが、1歳からこられて、離乳食を失敗されて、お子さんが咀嚼が出来なかったり、食べなかったり、飲まなかったりする。それが一番、最近目立ってきたと感じている。市が四カ月で行かれるのはいいが、離乳食が始まる六カ月にも行ってもらって、飲食の指導もしていただければと思う。
委員	虐待は最近全国的にも増えており、すごく気にしている。保育園、幼稚園来られる方はしっかり見ようと思っているが、入れない方、入らない方が結構いらっしゃる中で、子育てサークルだったり、保育園のほうもサロンをさせてもらっているが、もし足りないのであれば、他にも手を挙げる保育園もあると思うので、協力をさせていただければ、少しは計画どうりに出来るのかなと思っている。
委員	もともと私立幼稚園は3歳からの団体だったが、認定こども園化して、平成27年度の移行期、新制度が出た時に、ずっと躊躇してた方々が、このところ、皆さん認定こども園あるいは施設型給付を受けている。その時に、我々のネックになるのが小さい乳幼児を扱ったことがなかったこと。保育園や小規模とかの、現場でまさに直面されている課題を一緒に勉強をして切磋琢磨して、今に及んだところで。そして、今、次の段階で、子ども基本法が出来たが、その中で多様性とか、それから先ほど、子ども家庭庁で所管するところをいろいろ申し上げたが、そうした時に、私たちができることを何をやろうかと、地域の子どもが、幸せになるために、保護者さんが幸せになるためにはどうしたらいいかどこと手をつないでいけばいいか、その視点で私たちは話し合っている。子ども子育て会議でも、もうそこに来ている少子化に向かって全ての子どもが公平に幸せになるような施策を、探し当てていただければと思う。